支え合う人の心のやさしさを今こそ日本国中に・・・・

私たちは心を込めて訴えます

映画「エクレール・お菓子放浪記」の全国上映成功にあなたの手をつないで下さい

3月11日、東北地方を襲った大惨禍は一瞬にして数々の夢と未来を打ち崩しました。
押し寄せた津波の破壊力は、町の姿を一変させ、人々の暮らしを粉々に破壊しつくしました。
未来が奪われ、絶望が町を覆いました。
私たち、映画「エクレール・お菓子放浪記」製作と上映を支える宮城県民の会もこの例外ではありませんでした。

私たちが数々の夢を語りながら製作支援を続けて参りました映画「エクレール・お菓子放浪記」は、全国から寄せられた暖かいたくさんの手に支えられながら、三年にわたる準備の期間を経て、今年2月無事完成を迎えました。
3月10日、完成披露試写会を迎えた東京虎ノ門のニッショーホールは、待ち望んだ映画の完成を祝う会場一杯の感動の声に包まれていました。
＜お菓子のもっている不思議な力＞と＜いつまでも続く平和な世界＞を願ったこの作品は、全国に向けて見事な発信をしたと私たちは確信しました。
そんな誇らしい船出も翌日には・・・。
東北を襲った大惨禍は、映画のメインロケ地となった宮城県石巻市を一瞬にして壊滅させ、私たちの夢を打ち砕いたのでした。
映画に刻まれたあの素晴らしい情景は一瞬の津波に破壊され、この作品の製作を心やさしい手で支えて下さった方々は・・・。
もはや、東北での上映は、しばらくは考えられない状況となってしまいました。
そんな私たちに、全国から暖かいお声が次々に寄せられてきたのでした。

“映画「エクレール・お菓子放浪記」が、今の時代に語ろうとしたテーマ、そして撮影地となった宮城の県民が心を合わせてこの映画をつくりあげ、全国に伝えたいと思った願い、それは＜支え合う人の心のやさしさ＞だったのでは・・・。
発信地となった宮城、そして被災地では映画を上映できる状況ではないが、今こそこの作品の上映を全国に拡げ、この作品の心を語り、そしてそれを通して東北への支援の輪を大きく拡げよう・・・。”
各地からこんな数々のお声が、暖かく私たちの胸に伝わってきたのでした。

こんな暖かいご支援のお力に支えられながら、私たちはこの作品に、もう一度生命を吹き込んで、全国に向けて新たな船出をさせようと思うようになっていたのでした。

私たちは心を込めて全国に訴えます。
震災で不幸にも奪われたたくさんの生命や、たくさんのある筈だった幸せを背に負いながら。
この映画の全国上映を通して

＜支え合う人の心のやさしさを今こそ国中に＞・・・と。

私たちのこんな小さな願いが、いつかは日本中に拡がる大きな声となって響き合う日が来ることを信じて・・・。

2011年3月23日

映画「エクレール・お菓子放浪記」製作と上映を支える宮城県民の会

【名誉会長】　村井　嘉浩（宮城県知事）
【顧　　問】　豊國　浩治（東北経済産業局局長）
　　奥山恵美子（宮城県市長会会長）
　　佐々木功悦（宮城県町村会会長）
【代表委員】　亀山　紘　（石巻市長）
　　布施　孝尚（登米市長）
　　伊藤　康志（大崎市長）
　　若生　英俊（富谷町長）
　　佐藤　英雄（村田町長）
　　三浦　俊一（宮城県社会福祉協議会会長）
　　佐藤　攻一（仙台市社会福祉協議会会長）
　　三田村範雄（宮城県保護司会連合会会長）
　　里見　雅行（東日本旅客鉄道株式会社取締役仙台支長）
　　鎌田　宏　（宮城県商工会議所連合会会長）
　　天野　忠正（宮城県商工会連合会会長）
　　白松　一郎（宮城県菓子工業組合理事長）
　　小平　英俊（宮城県PTA連合会会長）
　　内田　幸雄（仙台市PTA協議会会長）
　　佐藤　知樹
　　（（社）日本青年会議所東北地区宮城ブロック協議会会長）
　　一力　雅彦（河北新報社代表取締役社長）
　　竹内　次也（仙台放送代表取締役社長）
　　横山　英子（（特非）キューオーエル理事長）

事務局
〒980-0014　宮城県仙台市青葉区本町1-4-8　シネマとうほく内
TEL　022-225-0986　　FAX　022-268-5264
E-mail　sendai@cinema-tohoku.co.jp